

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

「じょうぶで、なかよく、しんけんに」を校訓とし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指すとともに、生涯学習の視点に立ち、社会に貢献できる児童の育成を図る。

(2) 本年度の重点努力目標

ア 校内現職教育の推進

- ・ 「協同的な学び」のある授業を行い、創意工夫する中で教師の力量が高まる学校を目指す。
- ・ 道徳の時間を始めさまざまな場面を通して、児童一人一人の学び合う力を伸ばし、行動することができる研究を進める。

イ 児童理解の充実

- ・ 児童や保護者の理解や信頼を得るために、日ごろの関係づくりを大切にする。
- ・ 児童との相談活動を充実させ、家庭環境や家族関係などを考慮した児童理解に努める。
- ・ 教職員全体で情報を共有し、指導に当たることができる体制を整える。

ウ 子どもたちの環境整備

- ・ 自然（命）や物、時間を大切に扱う心を意識した教育活動を行う。
- ・ こども見守り隊やボランティアの協力、充実を図る。
- ・ FBC花壇を児童や職員、保護者とともに推し進める。

エ 地域社会の中の連携

- ・ 近隣の小中学校や幼稚園・保育園と連携を強め、地域の願いを生かすように心がける。
- ・ 保護者を含め、地域のボランティア講師を招いて、児童とのふれあいや関わりを深める。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 平成28年11月30日～12月19日

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

- ・ 児童生徒333名／全 334名
- ・ 学校評議員4名／全 4名
- ・ 保護者 490名／全 494名
- ・ 教職員27名／全 27名
- 計855名

3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童・生徒、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

- (1) 全体的にみて特徴的なのは、教職員においては、15項目中良くなったのは昨年度の2項目から5項目に大きく増加したことである。残りの10項目においてもほとんど増減はなく高い達成度で推移している。保護者・児童の評価は、合計30項目中悪くなったのは児童の1項目のみで、2項目で良くなっている。保護者においては、昨年度同様、達成状況のAが15項目中14項目を占めており、唯一達成状況がBの項目「家庭で、わが子は自主的に学習している」は70%から68%に微減したが、他は高い水準を保っている。
- (2) 児童においては、「おうちの人は、自分の学校での様子をよく知っている」の項目が昨年度より5%上昇している。これは、「家でよく話をしている」の項目がやはり5%上昇していることと相関関係があると思

われる。しかし、「おうちの人にもっと学校での様子を見てほしい」の項目の数値は昨年度と同様に低い。

「学校の授業は、わかりやすい」の項目では、各学年ともに達成状況Aの割合が昨年度より高くなっている。

- (3) 教職員の評価では、5項目が昨年度より上がっている。ただし、達成状況のみに絞ってみると、Aが12項目、Bが2項目、Cが1項目と全般的には、昨年度よりバランス良くまとまった結果となっている。「人に進んであいさつをしている」の項目では、達成度がC評価となっている。学校として取組や徹底の方法を反省するとともに、児童自身が考えて行動する態度を身につけさせたい。

- (4) 保護者からは、学校の取組を評価する内容、改善しなくてはいけない点について多くの指摘があった。学校独自で取り組めるもの、そうでないものを精査しながら検討し、前向きに取り組む必要がある。

※詳細は、別紙「保護者意見集約」参照

5 成果と課題

《成果》

- (1) 保護者アンケートでは、多少の変動はあるものの、全般に高い数値で安定しており、14項目で達成状況がAである。そのうち12項目で90%を上回っており、好意的に学校をとらえているといえる。今後も「開かれた学校」をアピールし、保護者の理解を得ることが大切である。
- (2) 児童アンケート、保護者アンケートともに「授業が分かりやすい」の項目の達成状況がやや上がっている。教職員アンケート「授業を工夫し、個に応じた授業を行うように努め、学びあいの学習に取り組んでいる」の項目の達成状況が昨年度に比べ大きく上昇した。校内現職教育や授業研究などを通して、教職員が日々努力してきたことが評価されたと思われる。

《課題》

- (1) 教職員は、「自主学習に取り組めるように働きかけている」では、6%上がっているが、「家庭で自主的に学習している」の項目の保護者評価68%と低い。学習の進め方や取組の方法などを家庭に伝えるとともに、具体的な方法を学校全体で考え実践を進めたい。
- (2) 保護者、児童ともに挨拶の項目は達成状況が90%近くであるが、教職員の評価が63%と低い。教職員との意識のずれが大きい結果となった。ただし、保護者や地域の住民からも挨拶の徹底を望む声が学校に伝えられる状況は変わらず、日々指導や声かけをしている。さらに具体的な指導や方策を考え、今後につなげたい。
- (3) 児童アンケートの項目「毎日学校へ行くのが楽しい」では、まだ11%の児童が楽しさを実感できていないことが調査から分かり、そのような児童の気持ちに寄り添う指導を工夫することが必要である。

6 改善策

- (1) 通学班会議等で班長や副班長の挨拶への意識を高めさせたり、児童会に呼びかけ校内のあいさつ運動をさらに充実させたりする。
- (2) 各種行事の開催（時期や方法）についてのご意見をいくつかいただいた。保護者の要望を念頭に置いて、職員で検討したい。

7 その他

- 「七宝小フェスタの開催日」について全保護者を対象にアンケートをとった。その結果は、土曜日開催を希望する（33%）、日曜日開催を希望する（22%）、どちらでもかまわない（45%）となった。この結果を踏まえて、来年度の七宝小フェスタの開催日については検討中である。